

新春座談会

津山城築城400年記念事業への思い



稲葉 伸次さん

新年明けましておめでとうございます。いよいよ今年は津山城築城400年。津山のまちが生まれて、ちょうど400年という記念すべき年にあたります。4月から始まる記念事業に向けて、津山城築城400年記念事業実行委員会の運営実施部会・総務部会のメンバーにお集まりいただき、記念事業への思いを語っていただきました。



北村 雅さん



鈴木 康正さん

参加して  
いただいたみなさん  
稲葉 伸次さん  
(運営実施部会会長)  
鈴木 康正さん  
(運営実施部会副会長)  
北村 雅さん  
(総務部会会長)  
長江真理子さん  
(総務部会副会長)



長江真理子さん

400年、  
それぞれの思い

稲葉 築城の時代というのは、現在の津山が成り立った基礎となる時代だと思えます。今回、築城400年を市民のみなさんといっしょに祝おうということで携わらせてもらっています。

鈴木 津山を中心にした美作1市5郡というエリアを1つの器として考えたときに、400年かけて育てあげたもの、なくしてきたもの、そんないろいろなものをご機会に検証し、考える機会にしてはと思います。先人は何を残し、私たちはそこから何を学んで今何を伝えようとしているのか、そのあたりが400年を考える上でスタートになると思います。

稲葉 400年の中で、私たちも知らないことがいっぱいありますし、地元にいながら地元のことを本当に見えていません。そういった意味からもつと地元を見る目を養っていかねばならないと思います。北村 経済が成長してきた中でいろいろなきことが失われつつあり、みんながもう一度過去を見つめ直していかねばならないですね。人の心、伝統文化や義理と人情など古きよきものを再確認する必要があります。そういった意味で、もう一度昔に帰ってまちを訪ねて

みることが必要だと感じています。長江 100年前の明治時代も記念事業をしたと聞いているので、この100年という期間で振り返ってみるのもいいと思います。人と人のつながりや子どもを取り巻く状況は変わっていますが、その根底に流れているものは変わらないと思いますので、今回の事業を通して再発見・再確認をしていきながら次につなげていけたらいいですね。

稲葉 みなさんの意見にあったようなところが記念事業のベースになっていくのかな、と思います。鈴木 ひとつ気になるのは、作陽音大や高島屋がなくなった事実を津山の人はどのように認識されているのか、ということ。このまちにある財産に私たちは気付いていなかった。今回は、そういった反省も踏まえて、何か手がかりがつかめないかと自分に宿題を課してこの大役を受けさせてもらいました。

活用の仕方を考えていかなければなりません。まちづくりは住んでいる私たちが確実にやっていかなければならないと思います。

長江 私は、津山が好きとか津山を愛するという子どもを育てていきたいと思います。今、家の中にいても遊びはたくさんありますが、いろいろな人とかがわる体験をたくさんすることの方が子どもたちには大切です。今回の記念事業の中では、子どもたちがわくわくどきどきする事業を行い、昔子どもだった大人もいっしょに楽しみ、感動を共有する中で、これからのまちづくりを考えていけたらと思います。

## 記念事業の

## キーワード

稲葉 今回の記念事業を考えたときに「再発見」「創造」「参加・交流」「発信」という4つのキーワードが生まれました。

鈴木 キーワードの中で「再発見」「参加・交流」「発信」というのは分かりやすく形にもしやすいと思います。「創造」というのが非常にむずかしく、最も問われてい

る部分かな、と思います。

稲葉 記念事業の400日が終わった結果、その後どうなったかというところが、逆に「創造」ではないかと思っています。この事業を通じて、何か少しでも具体的になるものもあれば人の気持ちの中に芽生えるものもあります。形はどうあれ、新たに生まれてくるものがあればいいと思っていますし、ぜひ生まれてほしいと思っています。

北村 総務部会としても、その意見に賛同してキャッチフレーズをつくりました。全国に公募したところ2、700もの候補が集まり、思いが伝わるものを選びました。最終的に、400年を機にお城を中心に市民が花開き、私たちの夢や未来も花開いていくという、未来に明るい希望の持てる力強いものにしました。

稲葉 シンボルマークについては、どうだったんですか？

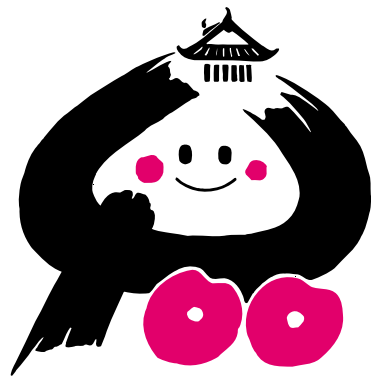
北村 城下町津山のことを市民みんなが考え、支えていこうとするようすが表現されていたので選びました。もちろん私にとってもよく似ているということもあつたんですが（笑）。自分のまちが好きになつて関心を持てば、そこから新しい宝が出てくるんじゃないかと思っています。そんな期待を込めてみんなでやっていくぞ！という

## 津山城築城400年記念事業

気持ちも表現しています。

長江 人の顔があつてとても親しまれるデザインだと思えますし、桜の花もイメージでき、キャッチフレーズとの統一感もあると思います。

稲葉 そんな思いでシンボルマークとキャッチフレーズを設定したということですね。市民のみなさんにも早く知っていただいで、ど



四百年城に花咲く 夢も咲く

んどんPRしていきますよ。北村 私は名刺の台紙にも備中櫓やぐらとこのマークを使っています。やはり白い名刺と違って受け取った人の反応も違いますよ。必ず築城400年や備中櫓のことを聞かれます。稲葉 私は名刺にシールをはっています。台紙があるんですね。また、イメージポスターも完成したようすが。

北村 はい。津山城跡といえませんが石垣ということで、ポスターには400年もの間津山の歴史をずっと見続けてきた最も古い石垣のところを使い、石肌に刻まれた歴史の重みを感じていただきたいと思っています。今後、市内各所にはり出していき、築城400年の雰囲気づくりをしていきます。



## 協賛金を募集しています

北村 私たち総務部会の昨年前半の山場は、協賛金と瓦<sup>かわ</sup>記帳の受付で、さくらまつり期間中は場内に受付場所を設けて、毎日みなさんにお願ひしてきました。最終的には、2、300を超え人の夢や名前を書き込んだ瓦が備中櫓の屋根に上がりました。

長江 瓦記帳は市民の人との出会いの場になりましたし、市外の人からも多くの協賛をいただきました。

北村 みなさん、お城に対しては関心を持っておられたように感じました。

稲葉 そうですね。お城にはみなさん関心があるようですね。私たちはその気持ちを何とか受けとめていかなければならないということですね。まだまだ協賛金募集は続きますね。

北村 平成17年3月まで協賛金の受付をしています。目標金額までもう少しとなっていますのでよろしくお願ひします。5,000円以上の協賛金をいただいた人には、江戸時代の津山城や城下町のようすを学術的に精細にコンピュータグラフィックスで再現した映像などを収録した「よみがえる津山城」を贈呈します。



津山城再現コンピュータグラフィックス(テスト画像)

## 備中櫓の復元と記念事業

稲葉 備中櫓はやっぱりすごいで

すよね。何度か復元工事現場を見学に行きましたが、完全に当時の造り方に沿って復元されているので、すばらしいものができていると思います。ただ、市民のみならずにとつて一体何に使われるのかな？という思いがあるのでないでしょうか。いろいろな意味で津山の大きなシンボルになってくれるでしょう。だからこそ、うまく活用していく必要がありますし、今後、利用価値を高めていかなければなりません。

鈴木 築城400年記念事業のメイン事業で、完成すると道からもよく見えますし、石垣の上に白い壁と壮大な屋根瓦が載る姿は、このまちの中心に象徴的に残ることはイメージできます。稲葉さんが言われた備中櫓の活用方法を含め、築城400年に立ち会った私たちが何を残していくのか、シンボルができたときに私たちの心の中がどのように変わっていくのかが大切だと思います。

稲葉 でき上がると確実に津山の象徴になりますね。そのとき、観光に来た人から「あれは何ですか?」と聞かれたときに、きちんと説明ができるようになりたいと思います。

北村 備中櫓を中心に鶴山公園が市民の憩いの場になればと思います。そうすれば備中櫓もいきてくると思いますし、今後の有効な利用方

法について記念事業の中で考えていつてもよいのではないのでしょうか。長江 私もそう思います。憩える場であったり市民が親しめたりする場になるよう400日間の事業の中でやっていけたらと思いますし、備中櫓がその中心になればいいと願っています。また、でき上がる工程を見学させてもらい、とても感動しました。

北村 備中櫓の工事見学会には、毎回600人くらいの見学者が来られていると聞いたので、みなさん関心をお持ちだと思えます。実際に私が見学したときも、真剣に説明を聞かれました。

稲葉 建てている最中を見学できるのはこの次何百年先になるか分からないですし、多くのみなさんに見学していただければ関心も深まるでしょう。そして、市民のみならず備中櫓の説明ができるようになるだけでも、津山の歴史について触れることになると思います。

長江 ありがたいことに実行委員会にかかわらせていただいて、津山城の歴史をたびたび聞かせてもらったり備中櫓の情報が入ってきたりするので、だんだん関心を持つてきました。

稲葉 多くの人が関心を持ち、事業に目を向けていただくことが大切です。ぜひ、がんばりましょう。

## おもな記念事業

### 開幕式

さくらまつりのオープン式と共同で開催します。「民謡と踊り」津山情緒『保存会』のみなさんによる踊り連や、彩装きもの学院のみなさんによる江戸時代から現代までのさまざまな着物が開幕式を彩ります。

とき 4月1日(木) 午前10時30分～11時30分

ところ 津山城跡正面入り口付近

内容 民謡と踊り、式典、鏡開き、紅白もちまき(抽選券入り)、太鼓ショー、桜の苗木プレゼントなど

### 津山歴史時代絵巻

〜築城大石曳き〜

築城当時の城普請の中で、石垣づくりの場面にスポットをあて、十数トンもの「石曳き」を当時のよつすそのままに再現。森忠政公祝賀行列なども行います。

とき 5月22日(土) 午後2時～

6時(予定)

雨天の場合は翌日開催

ところ 市内中心部

### みんなのミュージカル

〜石の記憶〜

公募で集まった市民のみなさん約100人により、築城当時の歴史を題材にした創作ミュージカルを上演します。大道具や小道具、衣装の製作などもすべて市民手づくりです。どうぞご鑑賞ください。(24ページに関連記事)

台本 山田美那子

演出・作曲 矢内直行

振り付け 植木たつ子、山岡典子

歌唱指導 矢内直行、鈴木英子

とき 10月31日(日) 午後1時30分～、午後6時30分(2回公演)

ところ 津山文化センター

入場料 有料

忍者参上!

### 〜まちをかけぬけ、あそびたおせ!お城山〜

未来を担う子どもたちを主役に、忍者修行という形を通して遊びます。自分たちのまちの再発見や住んでいる人とのふれあいを通して、将来に続く豊かなコミュニケーションづくりを目的にしています。

《まち修行 城西の巻》

とき 11月13日(土) 午後開催

ところ 城西地区

忍者頭の指令に従って、グループに分かれた子ども忍者が地区の中にある道場主を捜し訪ねて話を聴き、かわら版にまとめて発表します

《まち修行 一宮の巻》

とき 11月14日(日) 午後開催

ところ 一宮地区

内容 城西の巻と同じ

《火の修行の巻》

とき 平成17年2月下旬(予定)

ところ あいあいパーク(井口)

内容 日常生活の中で「火」を使う機会が減ってしまった子どもたちに、「火おこし」「たき火を使ってする料理」など、実体験の場を提供します

《お城山で修行の巻》

とき 平成17年4月29日(祝) 午前10時(予定)

ところ 雨天の場合は翌日開催

内容 津山城跡

忍者頭の命により、子ども忍者グループが津山城跡内各所に設けられた修行道場で修業を重ねます。すべての修行を終えた後、頭から「忍者認定証」を授かります

備中櫓完成記念

「津山お城まつり」(仮称)

津山城築城400年記念事業の締めくくりにあたり、「築城400年を学んで500年に残せ

るようなまちづくり」のきっかけになるようなイベントをみなさんといっしょに考えていきたいと思っています。

とき 平成17年のゴールデンウィーク期間中(予定)

ところ 津山城跡など

### 閉幕式

次世代を担う子どもたちを主役に、子どもたちに夢を持ってもらい、津山の輝く未来に向けた多くの市民の願いやメッセージを伝え、記念事業を締めくくります。

とき 平成17年5月5日(祝) 午後開催

ところ 津山城跡

### 市民手づくりの事業ですみなさんご参加を!

私たちの夢を子どもたちに託して次の築城500年に続くようなものが何かできれば、という思いで記念事業に取り組んでいきたいと思っています。市民のみなさんが私たちといっしょに記念事業に参加していただけることを願っています。

津山城築城400年記念事業についてのお問い合わせは、同推進室

2023へんぎ。

回 32